

# 校名：和歌山大学教育学部附属小学校

所在地：〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-1

電話番号：073-422-6105

記載日：2106年 5月20日

記載者：池田 彦男

記載者役職：副校長

## 貴校の校風、おおまかな特色について：

和歌山城の眼下、美術館・博物館に隣接した文教地区にある。校庭には、天然記念物の岡山の根上がり松に、樹齢100年を超す楠が何本もそびえ、運動場も広大であり、市中にありながら自然いっぱいの環境である。

明治8年、岡山小学校を和歌山県師範学校とし、これにともなって本校が創立された。以来140年、岡山の松の緑とともに育ってきた。

### 【教育目標】

- Enrichment — 豊かな情操 —
- Intelligence — 質の高い知性 —
- Creativity — 輝く創造性 —

21世紀の知識基盤社会を生き抜く子どもには、正しい価値判断や主体的・創造的な行動ができる資質や能力を持つことが望まれる。そのためには、対象の本質や価値、真理などの獲得という学びの結果得られるもの以上に、学びの過程が重視されなければならない。課題に向かって、対象・他者・自己との三位一体の対話を行う中で育まれる主体的な能力こそ、自分の身の回りにある様々な問題を切り開いていくために必要である。

### 【めざす子ども像】

- 対象・他者・自己と対話し、学習を楽しむ子
- 仲間と協同し、市民性のある子
- 自然と共生し、創造的に生きる子

## 学級編成等、本校のおおまかな特色について

### ○全学年30人学級

平成19年度より第1学年より1クラス30人学級とし、平成24年に全学年30人学級となる。これによりきめ細やかな教育活動がより展開できるようになった。

### ○異学年・少人数による学び—複式教育—

和歌山県下の複式学級設置校と交流し、複式教育のよりよい学習指導のあり方について研究を行っている。



**貴校の卒業生の活躍状況について：**

- 学校としては、組織的に追跡調査はしていない。
- 卒業生から構成される同窓会組織の方で、連絡先・活躍等を主に把握している。

**貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：**

- 学校としては、組織的に追跡調査は行っていない。
- 年度末人事異動等、公開情報をもとに把握している。研究機関誌等を送付している。
- 公立学校管理職、県及び市町教育委員会指導主事、社会教育主事等として活躍されている方も多くいる。

**魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：**

**○ICT 教育**

全ての教室にコンピュータ、実物投影機、プロジェクタを配置し、ICTの効果的な活用で学びをひろげ、深め合う。



**○ネイティブ講師と担任の T.T による外国語活動**



低・中学年は年間 17 時間、高学年は年間 35 時間のなかで、楽しみながらも、実践的なコミュニケーション能力を伸ばすようにしている。

また、タイ国のカセサート附属学校と交流を行い、互いに児童が訪問を行っている。

**○図書館教育の充実**

平成 19 年度よりコンピュータによる蔵書データ管理を導入している。

蔵書管理の合理化・貸出作業の簡素化にともない、児童の「本に親しむ」・「本を大切にする」等、意欲・態度を養う図書館教育の一役を担っている。



**○学校教育への保護者参加**

「読み聞かせ」・「生活科和みプログラム」・各学年学級行事等、学校教育活動に保護者が参加している。



**地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：**

本校では、研究の発信を主なもので年間 4 回実施している。以下のとおりである。

• 6 月 複式教育研究会

今年度で 16 回目の開催となる。参加者は、約 70 名である。

本校の複式学級は、昭和 40 年に設置されて以来、50 年近く取り組みを続けている。1・2 年、3・4 年、5・6 年の複式学級を 3 クラス設置している。各学年 8 人の 1 クラス 16 人編成である。同時間接指導など、複式教育のよりよい学習指導のあり方について研究を行い、発信をしている。

また、随時複式校の要望に応え、授業参観を受け入れたり、本校複式学級担任が校内研修会に講師として参加したりしている。

• 7 月（夏季休業中） 教科領域別研修会

2 日間実施している。教科によっては市内研究会組織と連携し実施している。参加者は、のべ約 400 名である。

• 11 月 教育研究発表会

参加者は約 700 名である。

【平成 28 年度研究主題】

問い続け、学び続ける子どもたち  
～子どもの言葉でつくる授業～

• 2 月 ICT 教育研究会

今年度で 11 回目の実施となる。約 100 名の参加がある。

本県においても若い年齢層の教員が多くなってきている。そのような状況の中、具体的な授業、子どもの姿をとおした研修はとても大切な機会となっている。

また、本県は、小規模校・少人数学級の学校も多く、このような地域の課題を把握した取り組み、発信はこれからも大切な任務である。地域の課題を的確に捉え、課題に対応した研究を進め、発信していく必要がある。

本校の取り組みが、県下の学校の指針となるよう取り組みを進めている。

**附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：**

○先導的な教育の研究・実践

大学学部と協力して、教育の理論と実際に関する先導的な研究並びに実践を行い、教育の現場に参考資料を提供する。

○教育実習の運営と指導

大学学部の教育実習校として、教職をめざす学生の指導にあたり、教育をはじめ、これからの社会が求める人材を育成する。

ここ数年の教員採用増により、大学教育学部の卒業生が多く採用されるようになってきている。教育実習校として、教員の資質・能力向上のために本校の果たす役割は大きいものがある。

○地方教育への協力

実際の教育現場の問題と取り組み、教育研究をとおして地方教育の進展に協力する。

## 教育研究開発

「問い続け、学び続ける子どもたち」

- ・ 21世紀型能力・学力とアクティブ・ラーニング（主体的・協同的学習）の研究
- ・ 和歌山の豊かな環境を活かした体験的学習をESD（持続可能な開発）教育へ

### 全学年30人学級

きめ細やかな  
教育活動の展開

### 複式教育

異学年・少人数  
による学び

## 附属小学校の 特色ある取組

附属3校コーディネーターとの連携による発達支援

体験活動

国際理解学習

ICTの活用

防災学習

### 教育活動への 保護者参加

- ・ 図書ボランティア
- ・ 児童の体験活動等

タイ・カセサート大  
学附属小との交流

## 教員養成及び研修（展望）

- 【教育実習】是非身につけて欲しい教育技術＝附属小学校スタンダードづくりを進める
- 【研修の充実】附属小学校を活用した教職大学院の授業開発と現職教員の力量形成